

(問)

6月13日及び14日の新聞やテレビに「カフェイン過剰摂取注意」、「中毒5年で101人搬送」などの見出しで報道がされているが、全日本コーヒー協会としてどのように対応するのか。また状況はどうか。

(答)

1. 6月13日の朝刊において、朝日新聞は日本中毒学会（電話 03-3384-8123）の実態調査として、「カフェイン過剰摂取注意」、「中毒5年で101人搬送」などの見出しで報道しています。午後のテレビ報道もありました。記事や報道内容を正確に把握すれば、眠気防止等のためにエナジードリンクやカフェイン製剤の乱用が原因で病院に運ばれるケースを報じたものであり、コーヒー飲用が原因でないことは理解できます。
2. 6月14日朝刊で、日本経済新聞は「カフェイン中毒搬送100人（11～15年度 眠気防止薬など多用）」、毎日新聞は「カフェイン中毒3人死亡（11～15年度 101人搬送 深夜勤務者ら エナジードリンクなど）」、産経新聞は「カフェイン中毒で3人死亡」と報道したため、全協にもコーヒー愛飲者から「コーヒーを飲んで大丈夫か」との電話がありました。確かに、新聞記事に「コーヒーとエナジードリンクを合わせて飲んだ人もいた」と記載されているので、飲用に懸念を持つ人が出るのは不思議ではありません。
3. このため、全協が日本中毒学会にコーヒーとエナジードリンクを合わせて飲み病院へ運ばれた人はどれほどの数か聞いたところ、中毒学会事務局ではわからないので日本中毒情報センター（電話 029-852-9999、072-727-2499）に聞いて欲しいとのことで、電話しました。ところが、センターでは把握していないので、日本中毒救急センター（電話 029-856-3566）に聞いて欲しいとのことで電話したところ、救急センターではコーヒーとエナジードリンクやカフェイン錠剤を合わせて飲んで運び込まれた例は把握していない、とのことでした。
4. 以上を受け、新聞記事に「コーヒーとエナジードリンクを合わせて飲んだ人もいた」と報道した日本経済新聞に問い合わせたところ、この記事は共同通信の配信記事100%なので、共同通信（電話 03-6252-8000）に聞いて欲しいとのことで共同通信へ電話しました。共同通信でもすぐにわからず1時間半ほど経過して、この記事の基は埼玉医科大学の上條吉人教授の研究で、コーヒーとエナジードリンクを合わせて飲んだ者4人、コーヒーとカフェイン錠剤を合わせて飲んだ者5人、97人が眠気防止のためにエナジードリンクやカフェイン錠剤を飲んでいたのでした。上條教授は6月30日から7月1日に筑波で開催される学会でこの研究成果を発

表するので聞きに来てほしい、とのことでした。

5. 要すれば、カフェイン過剰摂取問題は、コーヒー飲用に係るものでなく、眠気防止などで摂取するエナジードリンクやカフェイン錠剤に原因があるとするものでした。消費者から会員各位に問い合わせがあれば、この点を明解に説明することが大事であると考えます。
6. 5月30日の参議院厚生労働委員会で、薬師寺みちよ議員（無所属クラブ）が「我が国において、カフェイン中毒による死亡例はあるか」と国に質問し、国は「カフェインの過剰摂取による食中毒事例や死亡事例は把握していない」、また「医薬品の副作用報告（平成26年4月1日～平成29年3月末）制度によればカフェイン中毒死が疑われる例が2件報告されている」としています。
7. 以上から、コーヒー飲用に伴うカフェインの過剰摂取という問題は考えなくてよいと考えます。また、消費者から問い合わせがあれば、通常のコーヒー飲用であれば、過剰摂取問題は生じない旨、ご説明をお願い致します。